卒業論文　　2011 年 1 月提出

絵本の読み聞かせ活動
―その社会的意義の再発見

平成 19 年入学
文学部人文学科人間科学コース
社会学・地域福祉社会学分野
平成 23 年 1 月提出

「おはなし会」の様子　　(2010 年 12 月 16 日筆者撮影)

要約

本論文では、福岡市内の読み聞かせ活動について、参与観察および聞き取り調査によって、その実情と課題を明らかにし、さらにその実情を踏まえた今後の展望について考察した。

ここ日本では、家庭の崩壊が叫ばれて久しい。虐待など家庭不和が指摘され、近年では、子育てが「孤育て」、家族が「孤族」と記述されるなど、家族の絆が弱くなっていることが非難されている。家庭での絆が弱まり、本来の家族機能が機能しない結果、不登校や引きこもり果ては殺人など、社会と健全な関係を構築できない人も増えている。本論文では、家庭の絆、地域の絆を築くための一手段として、「絵本の読み聞かせ」を取り上げる。近年、国や市やその他の小さな団体が、読み聞かせ活動を積極的に行う傾向がみられている。実際、活動の場がどのようなものであり、何をもたらし、今後どうあるべきかを考察する。

第 1 章では、「子どもを取り巻く環境」に触れ、なぜ「読み聞かせ」活動が必要なのか、それを必要とする社会的背景は何なのかという疑問について、現在の家族機能、そして家庭での電子メディアによる影響から説明する。

第 2 章では、福岡市のアンケートから、現在の子どもの読み聞かせ状況を示す。

第 3 章では、国や市が取り組んでいる読み聞かせや読書の推進計画について触れている。

第 4 章では、家庭と、家庭の代わりとなる場所での読み聞かせ体験について、聞き取りや筆者の体験を示す。

第５章では、福岡市で読み聞かせ活動をされている団体の実情を、参与観察と聞き取り調査から明らかにする。

第６章では、第５章から見えて来た実情を踏まえて、読み聞かせ活動の意義と課題、そして今後の展望について述べ、本論を締めくくっている。

目次

はじめに 1
第１節　家族機能の低下 2
第２節　テレビによる家庭への影響 4
第２章　現代の子どもの「読み聞かせ」状況 7
第３章　読書活動・読み聞かせ活動の推進 9
第１節　文部科学省「子どもの読書推進活動」 9
第２節　福岡市子ども読書推進計画 9
第３章　課題と展望 10
第４章　家庭での読み聞かせの意義 14
第１節　家庭での読み聞かせの役割―親子関係の構築 14
第２節　家庭の代わりである学童保育での補助指導員としての体験 15
第３節　児童養護施設の児童指導員への聞き取り 22
第５章　読み聞かせ活動の歴史的変遷 24
第１節　子どもと本の出会いづくりの歴史 24
第２節　全国の読み聞かせ活動団体の推移 27
第６章　福岡市の読み聞かせ・子どもの読書に関する活動の現状と役割 32
第１節　「ブルーベリー文庫」 32
第２節　「大池どんぐり文庫」 38
第３節　「しおかぜ文庫」 47
第４節　「梅の木文庫」 53
第５節　まなび舎「おやこぼっこ」 55
第６節　活動の時代別・対象年齢別分類 62
第７節　活動内の支え手・子・親の関係性の分析 65
第７章　考察 71
第１節　子どもの読書活動グループの社会的役割 71
第２節　課題と今後の展望 81